

【別紙】 令和7年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立榛松中学校)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	・知性と創造性に富む生徒 ・豊かな心と思いやりのある生徒 ・健康でたくましい生徒
目指す学校像	笑顔があふれる 学びと感動のある榛松中学校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者 (教職員を除く)	6名
事務局 (教職員)	2名

領域	学校自己評価			年度評価 (令和8年1月13日現在)		
	年度目標			重点目標の達成状況	次年度への課題と改善策	
	現状と課題	重点目標	具体的方策			
組織運営	○個別の取組が中心であった。組織の活性化により取組の具体化と協働体制の構築が急務である。	○目指す学校像「笑顔があふれる 学びと感動のある榛松中学校」の実現に向けて、教職員の意識と組織力を向上させる。	○目指す学校像の実現に向けた個別目標の確認 ○教職員で経過確認と校長の啓発活動 ○学年主任を補佐し、学年組織体制を強化する副主任制度の導入	○教職員との面談で、個別目標や達成状況を確認した。様々な場面を通じて定期的に啓発したことで、生徒・教職員とも目指す学校像プラス評価90%以上と、学校全体の意識向上が図れた。 ○学年副主任の導入により役割が明確化され、組織対応力が高まった。	A	○目指す学校像の実現に向けて、啓発活動を継続する。 □デジタル版の生活ノートは、教職員・生徒への定着が課題。継続して取組を実施する。
		□安心・安全な居場所としての学校づくりを推進し、新規不登校生徒の抑止と継続不登校生徒への支援率100%とする。	□個別学習支援の組織体制の構築 □デジタル版の生活ノートを導入し、組織的な生徒の状態把握と不登校生徒との関係強化 □道徳教育・人権教育・交流教育の推進	□個別学習支援体制の構築をはじめ、1年生4月の校外学習、交流教育の充実、いじめ対策会議の開催、デジタル生活ノート導入など、人間関係作りと、いじめ問題の未然防止・早期対応を進めた結果、生徒の安心・安全な学校づくりを推進できた。	A	
教育課程	○学力向上の実現と教育活動の周知が課題であった。具体的な策を組織的に講じていくことが必要である。	○自主性・協調性・実行性のある活動を通して、社会の中でよりよく生きる力の育成を図る教育を実現する。	○デジタル教材を活用したキャリア教育の実践 ○学びあい、学び直しのできる教育環境づくり ○他校の研究授業等に積極的参加	○年間計画に位置付け、全学年でデジタル教材を活用したキャリア教育の授業を展開した。また、地区の小学校と算数・数学を中心とした小中連携に取り組み、授業見学、協議を重ねた。 ○他校の研究授業を広く周知し、職員を積極的に参加させることができた。	B	○デジタル教材を活用したキャリア教育は、単発にならないよう、様々な教育活動への位置付けと、活用頻度を高めていくことで、将来的な学力向上を目指す。
開かれた学校づくり	○ホームページによる情報発信が課題であった。効果的な活用に向け、組織体制の見直しを行う。	○教育活動の公開や紹介などの情報発信を定期的に行い、家庭・地域との連携を強化する。	○学校公開日の設定 ○学校紹介動画の作成 ○地域連携会議の開催 ○学校HP、学校だよりやメール配信等による教育活動の発信	○学校HP、学校だよりやメール配信をはじめ、4月・3月の授業公開、10月の体育祭、11月の合唱コン等、教育活動の情報発信を定期的に行い、保護者・地域の方の理解促進につなげた。 ○職員玄関に大型モニター設置、学校紹介動画で来校者を迎える体制を整えた。	B	○職員玄関の大型モニターは、個人情報への配慮が課題。個人が特定できないよう、画像選定・画像サイズ等を考慮する。 ○今後の部活動地域展開も含めた地域連携のあり方について、継続して模索する。
教職員の資質向上	○若手教員の指導力・授業力向上に向けて、ベテラン教員の経験を伝達していく計画的・組織的な指導体制の構築と、教師としての姿勢の継承が必要である。	○教育公務員としての高い倫理感を持った教職員の育成と、教師集団の形成を実現する。	○「服務の基本」についての共通理解 ○コミュニケーションによる風通しのよい職場づくり ○教職員事故防止に向けた研修を計画的に実施	○率先垂範、服務の基本、情報管理を意識して指導育成ができた。特に「服務の基本」については、繰り返し全体指導を重ね、自覚向上と共通理解を図った。 ○教職員事故根絶に向けて、不祥事防止研修を定期的実施した。	A	○「働き方改革」の号令の下、教育の本質までもが効率化されないよう、今後も注意を払っていく。
		□計画的、実践的な若手教員の指導育成を図る。	□定期的に先輩教員の授業参観 □計画的に研修会を開催し、先輩教師や管理職による指導場面を多く設定 □指導者を招聘した研究授業の実施 □他校の研究授業等に積極的参加	□指導主事を招聘した授業研究会や校内教職員での相互授業参観、教頭による若手研修会等を実施し、若手教員の指導育成を図ることができた。	B	
施設・設備等の管理	○老朽箇所や破損箇所の修繕を行い、環境整備を進めているが、予算的な課題で修繕が十分に進まない箇所もある。創立48年の校舎は老朽化が進み大規模な修繕を進めていく必要がある。	○子供にとって安心・安全で学びやすい学校、教職員にとって働きやすい職場環境を実現する。	○管理職による校舎内外の巡視 ○全教職員による毎月の安全点検実施 ○老朽箇所や破損箇所の速やかな修繕 ○空き教室の整備と活用	○管理職の日常点検や教職員の定期点検等、危機管理を徹底した。盗撮防止マニュアルの作成、生徒昇降口への防犯カメラ設置など、生徒の安心安全の確保に努めた。来校者向けに職員玄関に大型モニターを設置、教職員の働きやすさ向上のため、電話の録音機能を導入した。	A	○空き教室の整備と活用は継続課題。 ○開校50周年を見据えた環境整備を実施する。

学校関係者評価	
※実施日	令和8年2月9日

学校関係者からの意見・要望・評価等

・職員が目標が統一され、概ね同じ方向に進むことができている。
・子どもを放っておかない体制作りを意識してほしい。 ・デジタル版生活ノートは、子供に即時性を求められると、先生の働き方改革に逆行する可能性がある。また、子供と教員のやりとりを保護者が知ることができない可能性はある。 ・書く練習とICT活用の上手なバランスを考えてほしい。

・学校での取組をもっと保護者が見える形にする  
・学校評価の生徒と保護者の差が縮まる。  
・「非認知能力」の評価も取り入れてみてはどうか。  
・家庭学習の不足が明らかであり、目標設定と意欲向上に向けた手立てが大事である。

・保護者と教員の連絡方法がメールメインになり、学校の意図や活動が正しく家庭や地域に伝わりにくくなっている。これからもアナログでの生徒・保護者との対話は必要。

・生徒の背景を理解することで、教員の指導の幅も広がる。  
・働き方改革もあるが、教員として本質的なところは削ぎ落してはいけない。教育は人と人が接して初めて成立する。生徒・保護者と直接つながることを大事にしてほしい。

・若い先生方には電話を苦手とする先生もいるようだが、学校で心配な様子を感じたら、保護者に一報入れることで、家庭との連携強化を図って欲しい。

・老朽化は進んでいるが、外壁修繕が行われており、しばらくは大丈夫そうに感じた。